

学生アスリートの競技意欲に関する研究 —特に女子バスケットボール選手に着目して—

國松 祐未 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 佐々木 直基

キーワード：意欲、現状、目標達成

1. 緒言

本学は大学名にスポーツと明記しているにも関わらず、競技スポーツで好成績を残すことが出来ていないという現状がある。先行研究によると本学の選手は自分を変えたい、強くなりたいと考えているが、行動すべき内容が明確に出来ていないとされている。その原因として、選手自身の競技に対する意欲の低下により、競技に対する積極的な行動が出来ていないのではないかと考えた。

そこで本研究では、著者が所属する女子バスケットボールチームに着目し、他大学と本学の選手の競技に対する意欲の調査を行い、他大学の選手との違いや競技成績との関連を考察し、本学の選手が競技成績を上げるためには日々の生活や練習をどのような意識や考えの上で取り組む必要があるかを明らかにすることを目的とした。

2. 研究対象および方法

本研究の調査対象は、関東大学女子バスケットボール連盟および関西女子学生バスケットボール連盟の1部(上位、下位)、2部(上位、下位)、3部(上位、下位)の8チームを調査対象とした。

調査方法は、TSMI(体協競技意欲テスト)を基に作成したアンケートを使用した。

3. 結果および考察

(1) アンケート調査

本学の選手と他大学の選手との競技に対する意欲の差はあまりみられなかった。しかし、本学の選手は意欲が高いが好成績を残せてい

ないことから質が伴っておらず、低いレベルで活動していることが明らかになった。

(2) 本学の選手の現状と目標達成の概念図

上記の結果により、まず低いレベルで活動しているという現状を選手一人一人が向き合う必要性が挙げられた。そして、図1のように再度目標の確認および設定を行い、日々の生活から目標達成するための“自己管理”が必要であり、“自己管理”の習慣を徹底するとともに、「気づく」「感じる」「考える」という“感性を磨く”、何事でも人のためになる行動を行う“自己犠牲”が出来るようにならなければいけないと考えられた。

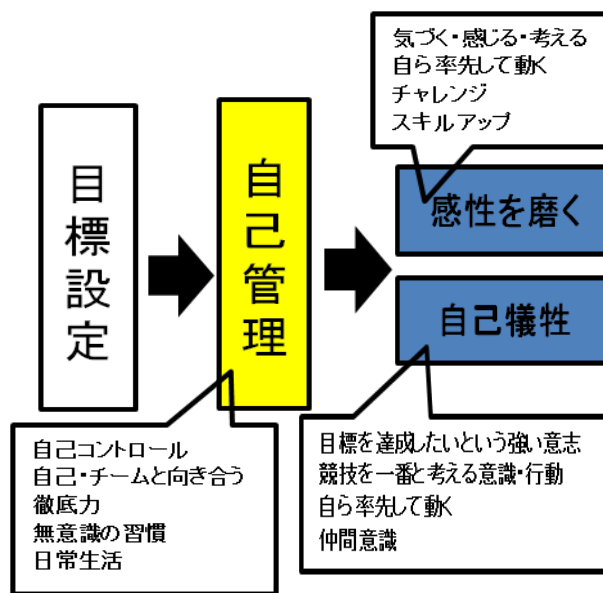


図1 本学の選手の目標達成を想定した概念図

参考文献

- (1) 高橋沙弥 (2009) 「スポーツ選手に必要な態度に関する研究」 びわこ成蹊スポーツ大学卒業研究